

# 治療を受ける 子どもへの説明

3～5歳頃



子ども達に「**勇氣**、**夢**として**笑顔**」を



## 子どもに説明をする意義

病気・治療について子どもに説明することで、子ども自身が積極的に治療やケアに参加し、病気に対する自己管理意識を高めたりできるといったメリットがあります。また、子どもは不必要に悪い想像を膨らませて不安を高め、そのことをうまく言葉にできないことがあります。その際、子どもが理解できる言葉で適切に説明することで、子どもに安心感を与え、信頼関係を築くことができます。



## 子どもの発達の特徴

この時期は日常生活の基本となる食事、睡眠、排泄、衣類の着脱を身につけ、生活リズムを整える時期です。また、できることは自分で行動する自発性を獲得する時期です。

【3歳頃】 「交渉」を始める。色や数がわかり始める。

【4歳頃】 自制心や調整行動がとれるようになる。

【5歳頃】 物の使い方、左右がわかるようになる。  
文字を読み書きし始める。



## 子どもの病気の理解

- ・病気について考え始めるが、病因・症状・治療の関係の理解は難しい。
- ・「病名」の理解は難しいが、子どもが理解できる「わるいもの」「ばいきん」などの言葉を用いて丁寧に説明することで、病気によって身体がどのような状態になっているかは理解できる。
- ・病気を罰、悪いことをしたからと捉えることもある。





## 治療を受ける子どもの目標

- ・自分の身体・体調、病気に関心がもてる
- ・身体の不調を訴えることができる
- ・受診・入院が苦痛を伴う体験のみではなく、がんばった体験として意味づけられる。



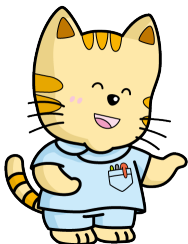
## 子どもへの説明ポイント

- ★検査や治療は病気がよくなるために必要であることがわかるように、具体的にやさしく伝える
- ★子どもが"知りたい情報"を理解し、誠実に答える
- ★できる限り、子どもにうそはつかないように対応する
- ★病気は誰のせいでもないことをはっきりと伝える



## 子どもへの接し方のポイント

- ★子どもの遊び、一緒に楽しむ時間を大切にする
- ★できたこと、がんばったことは褒める
- ★子どもが泣いたり、嫌がっても否定せずに子どもの思いを受け止める
- ★処置や内服時はできる限り、子どもが取り組もうとするタイミングを待つようにする。
- ★選択肢がある場合は、子どもが選べるようにする
- ★病気だからと特別扱いしない



子どもへの説明で気になることがあれば、医師・看護師にお声かけください。



地方独立行政法人 大阪府立病院機構  
大阪母子医療センター

〈患者支援センター〉

〒594-1101 大阪府和泉市室堂町 840

患者支援センター TEL 0725-56-1220

FAX 0725-56-5605